



常陸
志

郡郷考

下

ル 4
5011
4



門 4
號 5011
卷 4



常陸國郡郷考卷十

那珂郡 風土記
作那賀

水戸 宮本元球仲笏 著

本郡ハ風土記其首と畧をり建置乃始と知る小由なし那賀那珂の地名諸國小なりて皆中の義之初常道の域畧定まじし時より其中より何る地小て那賀と稱せしハ風土記の初小見えより古事記神武

卷云神八井耳命者常道仲國造等之祖也風土記行方郡條云建借間

命崇神朝平東夷即此那賀國造初祖 取其大意 國造本紀云仲國造志賀高

穴穗朝御世 成務 伊豫國造同祖建借間命定賜國造 按同書伊余國造志賀高穴穗朝御世印

藩國造同祖敷析彥命兒速後上命定賜國造印波國造輕島豊明朝御代應神神八井耳命八世孫伊都許利命定賜國造こま本文小舉たる

本紀を子孫等の字と漏らざるを以て、
崇神を成務までハ二百餘年ニ

時那珂國造大建壬生直夫子乃ハ建借間の後ハ壬生直姓と賜

ハ里一ノヤ 按姓氏録壬生臣大宅臣祖にて孝昭皇子天足彦國押人命の後ニ又壬生部公御間城入彦天皇之後者不見ト阿

直ナリ 郡領となりて其姓ハハリて續紀養老七年二月那珂郡

大領外七位上、宇治部直荒山、以私穀三千斛、獻陸奥鎮所、授外從五位

下、天應元年正月、那珂郡大領外正七位下、宇治部全成、授外從五位下、

以進軍糧也、按姓氏録宇治部連宇治宿祢宇治山守連等皆饒速日命六世孫伊香我色雄命之後

也、阿リ 此宇治部氏世世郡領ナリ

四至 風土記云、東大海、南香島、茨城郡、西新治郡、下野國、北久慈郡、

和名鈔郷廿二

按戸令云凡郡以廿里以下、十六里以上為大郡、義解云謂郡不得過廿里、民部式云郡不得過千戸、此令式同

義ハテ神龜以後の郷ハ令の里ニ其一里ハ五十戸を以テ一郡ハ千戸以下ナリ千戸以上ハ至多ハ二郷三郷トモ別小一郡を置

テ此令を小郡ト云ふ和名鈔廿郷以上を載たる郡ハ獨本郡ト紀伊名草郡とのミ因テ名草郡と檢むる小其郡中神戸多く辨別

易さリ為小津麻神戸日前神戸と擧たるを傳寫の時二件小分書とるトテ其實ハ郷十四神戸五驛一を以テ戸數千ハ至ラ

ざる之本郡ハ河内一驛の外廿一郷トシテ式令の制不違えリ其誤ある論を待トモさきト何モの郷名を誤テ擧ぐるも辨ナリ

故不其目小從ひ今の地を考え訂正に至テハ後哲を待川のミ

入野郷 今茨城郡上入野村是ナリ

按今吉田村小近ニあり小も下入野村あり何モ

伊乃ト訓ハ二地ハ頗隔たれとも其辨易さリ為小上下ト云ふ鹿島久壽二年神領目錄那珂郡内、いのト云る此地の事ナリ

朝妻郷 遊方名所畧云、那珂郡朝妻山、與近江國朝妻同名、木聳巖秀

水落洞深其流入戀瀨川又云戀瀨川那珂郡名勝也こまゝ考れ

ハ入本郷村即本郷ふりて上小葦鷲子山其郷名を負ひ山より

發をる小瀨川と戀瀨川とも呼ひたる按大和葛上郡朝妻ハ仁德紀小阿佐豆麻近江坂

田郡朝妻ハ天武紀朝嬬萬葉旦妻姓氏録朝津間續後紀承和元年

小朝妻造清主たり朝妻の名義ハいも考ひ得を又鷲子山又鳥

子小作和名鈔參河碧海郡鷲取訓和之止利なるを此川の事ハ

兵部式鳥捕山總國風土記鳥取山小作小葦鷲子

常陸國誌頭書小も戀瀨川ハ小瀨川ハ越瀨川とも云ふと何まを

早くより心付お人も何ま按小瀨川と戀瀨川と云ふハ和歌小讀まん料小便を

諸國名所其例多戀瀨川の歌を新拾遺水の上の泡こまゝなは

戀瀨川なるまで物を思ハさらず續後撰戀瀨川浮名とならぬ

水の上ハそて小多ゆらぬ涙をりけり夫木集十首御歌合又戀後

二位家隆こいと川比まなき申小行水八年もをう移ぬなみな

吉田郷 今茨城郡吉田村是之藥王院安貞二年田檢注目錄應永廿

八年注文等小據るに其頃吉田酒戸河寄細谷吉沼山本と六郷小

分またる地皆本郷の内と見えたり按河寄山本ハ今水戸城下の地なり川寄町存り山本ハ

竹熊町のあたり武熊の吉田社嘉元神事目錄小吉田九村と何れ

ハ郷中と云ふふ似とまゝ上の注文の内酒戸川寄を除き其頃吉

田郷と稱する地のこなり按九ヶ村ハ神事目錄小吉田千波村吉田郷拂澤藥王院應永九年大祓宜大舎

人恒成寄進状小吉田郷之内阿佐村今淺野臺と云ふ吉田社嘉元

四年大舎人重恒讓状小吉田社權現祝名田信田尻村田畠在家と

りりて注小濱田勸田六段澁江五段酒戸三段西狹間二段鳥廻四

段宮後五段とその字所あり今信田尻を澁江ハ澁井とて濱田

と各一村之吉田社延慶二年狀小吉田郷笠原村あり是千波拂澤
阿佐信田尻笠原五村ハ其目知る一其餘四村ハ今米澤福澤古
宿等の地あきとも 此九村小前五郷と合さく古郷の地と見え
其旧名ハ傳ハらる 按此地ハ中世多氣重幹二子吉田次郎清幹地頭として支
了庶那珂東西小蕃延より又此郷と本として吉田郡と稱を

岡田郷 今柳澤村岡田と云ふ所あり且其鎮守と岡田明神と稱す

是郷名の遺 按明神ハ今三段岡柳澤二村の鎮守と中世ハ一
郷の大宮とて郷名を負ひし之祠中の古祝文小岡

田坐岡田明神とあり
と云ふ今こまを失ふ

安賀郷 今茨城郡有賀村是なる一 按鹿島久壽神領目錄
那珂郡内有りがと見ゆ

大井郷 詳ならざる 按神名帳那珂郡大井神社あり郷ハ必神社の地
なる一 或云今茨城郡飯富村是より其鎮守鹿

島明神ハ即大井神社之今ハ水涸れとも古大井なりと云ふ所
も何と因と考ふる其地ハ親鸞傳小那珂西郡大部郷とて大部

平太郎ハ在所ハ六蔵寺藥王院等過去帳加倉井系圖とも小永祿
天正の頃大部平所延享元年飯富と改免いひとと呼ぶと云
ふ飯富ハ元來おふの訓より大和十市郡飯富不同く十市郡ハ
綏靖紀多臣の郷里として式多坐弥志理比古神社も有り上總望
陸郡なるハ和名鈔飯富小作て訓於布之甲州の士飯富兵部少
輔ハふを濁音小唱ふ多錢見まは大部ハ舊より飯富とも書くる
ふやささハ延享ハ其唱えを改免してまはる一 叔大井と於布
於不との唱ふるハ思東なる所ハたよりこれとも定めり
一又或云今那珂郡向山村小松も井と云ふ地有り行方郡大井も
土人おも井と唱ふるまはる井ハ即大井之下江戸村小古井有り
て不浄の用を避る為小常小注連と曳々まはる是向山より此あたり
ハ古郷の地とて古井ハ即大井なりとされと此あたり絶て舊社
の大井社ふ當つ
へきものなり

河内郷 今上中河内二村是之 按鹿島久壽目錄上中下河内あり
今西蓮寺村ハ必下河内也 風土

記云自郡東北挾粟河而置驛家 原注本近粟河謂河 粟河ハ阿波郷
内驛家今隨本名之

と經て來れる故の名して那珂河の古名なる河を挾きて驛家ふる成以て驛長の宅ハ河西常石郷小所り今長者屋敷と云ふ注ハ河内の名義之此頃已小郷の事と兼たり畧本をさし知るべし

川邊郷 今野口平村の内川の邊と云ふ地所是郷名の遺之按和名鈔

大和十市郡川邊訓加ハ乃倍山城葛野郡川邊駿河安倍郡川邊並訓加波乃倍又按小野寄譜此地ハ伊勢守藤原公通二子川邊大夫通直始て居る其子通資那珂郷小遷り那珂氏より

常石郷 今茨城郡常葉村是之風土記云當其以南河内泉出坂中水多流尤清謂之曝井綠泉所居村落婦女夏月會集浣布曝乾原云以此下畧之此曝井ハ袴塚村瀧坂と云ふ那珂河の方へ下まる坂中小所なり今

ハ清水の涓流なるもの其近き所より小曝臺と呼ぶる所も有り
と云昔曝井ふてさうとろ布と乾したる地と見えたり萬葉集那

賀郡曝井歌ハ三粟乃中爾向有曝井之不絶將通彼所爾妻毛我ハ即是ふて主計式瀑布ハ此處より貢とて中爾向有と云ふ

此頃粟河已小那珂河と云ふ按尊卑分脈源頼信五男常葉五郎義政此地小居り後三世政廣地と失ひて國井源ハと改稱其後石川家幹四男常葉四郎國幹地頭之地より大掾系圖小見えたり

全隈郷 今茨城郡又熊村是之按鹿島久壽目録那珂郡内またくま

日下部郷 三字の郷名誤まるハ論按和名鈔伯耆河村郡備前上道郡並日下部郷なりて訓

昔佐加倍なり日本靈異記ハ早部小作まり本文ハ何如なりとん其真知るべし今茨城郡上泉村小草

掛明神あり是日下部の大宮小く俚語の訛りなる事明らなり
さきも此地ハ日下部郷之按日下部ハ古事記仁徳卷小大日下部
若日下部あり姓氏録小其姓あり神武
卷小ハ日下
之蓼津あり

志萬郷 今茨城郡島田村及島新田等の地是なり一酒沼の下流
小阿比ハ當時島嶼の形勢なり一と見ゆ

阿波郷 今茨城郡大山栗野等の地是ハ大山ハ栗山ハて式阿波山

神社あり中世大山と上栗大山阿弥陀院天文廿三年七月朔日
識小那珂西郡上栗官原山とあり栗

野と下栗と云ふ鹿島久壽目録那珂郡下ありあなさそ中
大やまありさそとあり中栗もあり一増井

正宗寺舊記小正法院ハ行義佐竹弘安年中御建立同被鑄鐘同那珂

西郡阿波郷六百貫の所と寄附此内小除く地ハ栗殿五町五間鎌

倉圓覺寺領の寶歸菴按佐竹義盛弟栗刑部大輔義有
栗野小居り栗殿と稱とらる税所貞治

中配符小那珂西栗郷なり何れ此頃すてハ郷名を稱と風土記

栗河も上游小本郷あり故の名なり神社ハ少彦名命と祀と

云ふ神代卷縁栗莖の故事と云ふ地小祀と一や又ハ神社

ありて後の地名なり不審

芳賀郷 今茨城郡栗寄村鎮守と芳賀明神と稱するハ是本郷小

て明神ハ其大宮なり按和名鈔下野芳賀郡音波加と郷同
名あり其餘陸奥安積郡出羽最上郡並

芳賀あり尾張智多郡番賀も同義小似風土記云原云最
前畧之平津驛家

西一二里有岡名曰大櫛、上古有人體極長大、身居丘壟之上、採屨食

之、其所食貝積聚成岡、時人取大朽之義、今謂大櫛之岡、其大人踐跡、

長卅餘步、廣廿餘步、尿穴跡可廿餘步、原云以下畧之平津、今平戸村之按地

名津の戸小轉を一處枚舉小勝えは此地那珂河涸沼沼落合の所小一々津濟今も所也西小東前村、り藥王

院曆應文書遠廐小作、六段田六藏寺過去帳、天正の頃東馬屋小

作、驛馬と置、所と見え、按那珂河と渡りて勝倉村小長者屋敷、りる多是海濱の驛道、りて其

上、行方郡曾祿驛、大櫛、今大串村、按取大朽之義と、其貝殼の委積して朽る

と云ふ、今大串の坂路と下り塩岸と云ふ所、小祠、りる傍小多く貝殼と出、る處ありて土人も猶大人の事を傳説と、り二村

ハ皆本郷の内、る此驛後廢と、りや兵部式、り載と、り

石上郷 今茨城郡下青山村石神と云ふ所、り是石上の轉、り郷

名の遺、り按和名鈔大和山邊郡、り十市郡備前邑久郡石上ハ

本郷と訓、り且隣接小石塚と云ふ地、りも其郷中、り多り、按石塚

族石塚三郎宗義、り城趾、り其内檀山と呼、りる小祠、り多、り側の

土中、りり破裂と、りる形状の石と出、り随て掘、り随て出、り大小數百

千盡、り事、り土人傳説古昔久慈郡石奈坂、り小怪石、り漸長大、り小

石奈坂、り小留、り一ハ今那珂郡石神、り小至、り一ハ即石塚、り小至、り今地

中出、り所ハ是其石、りなりと荒唐の談、りな、りも此地ハ石と出、り故

小石上とも呼、りひたる、りなり

鹿島郷 今茨城郡古内村等の地、り是、りなり、り三代實錄云、り貞觀八年

正月廿日、り丁酉、り先是常陸國鹿島神宮司言、り鹿島太神宮惣六箇院、り二

十年間一加修造所用材木五萬餘枝中畧按惣六箇院の目ハ止由氣宮儀式帳小見ヨ参考ス

採造官材之山在那賀郡去宮二百餘里行路嶮峻挽運多煩これ

本郷と鹿島と名付けたる由小て定例造官の材と出とふと以て

遂小くハ名と得たる其地鹿島宮と去る二十餘里ふまると二

百餘里と何れも當まると按安居院某神道集云鹿島大明神ハ天照大神第四ノ御子也天津兒屋根命金鷲ニ

駕シテ常陸國へ天下リツ、古内山ノ旧跡鹿島里ニ顯ル其間幾

千年ト云フコトヲ知ラス又云鹿島大明神者常陸國ニ垂跡中畧

天兒屋根尊金鷲ニ乘常陸國中郡古内山ニ天下リ其後國中ヲ廻

リ鹿島郡官處ニ御在所ヲ定ムこま本末顛倒の傳會なきと古内

ハ鹿島郷な多を知る小由何り今其地清音寺境内小鹿島宮立と

る小山何り社領三石餘なりと云ふ是傳會と一所なるにや

且其近村鹿島と云ふ所多く鎮守も大氏鹿島と祀まると按上古内村鹿島祠

小勝村鹿島祠并奥宮塩子村鹿島祠又鹿島と云ふ所孫根村鹿島

云ふ地何れ又岩船村も近地小て其神社ハ天鳥船神とも稱し

鹿島神と共小天降其村と皆屬村を何れ廿年小一度宛五萬餘

枝と採まると其地の廣き想ふべし

茨城郷 今茨城郡小原村是之音乎婆良ハ中世大茨と唱えしり

轉按正宗寺藏書大茨と何り旧茨城郡の本郷なると風

土記存那珂郡之西と本郡小係けたると其先已小本郡小入ると

詳小茨城郡小出風土記云茨城里自此以北高丘曰輔時卧之山古老

曰有兄妹二人兄曰努賀毘古妹名努賀毘咩時妹在室有人不知姓

名常就求婚夜來晝去遂成夫婦一夕懷妊至可産月終生小蛇明若

無言、聞與母語、於是母伯驚奇、心挾神子、即盛淨坏、設壇安置、一夜之間、已滿坏中、更易瓮而置之、亦滿瓮内、如此三四、不敢用器、母告子曰、量汝器宇、自知神子、我屬之勢、不可養長、宜從父所在、不合有^ハ此者、時子哀泣、拭面答曰、謹承母命、無敢所辭、然一身獨去、無人共去、望請矜副^ク一小子、母曰、我家所有、母與伯父而已、是亦汝明所知、當無人可相從、爰子含恨而事不吐之、臨訣別時、不勝怒怨、欲震殺伯父而昇天、時母驚動、取瓮投觸、神子不得昇、因留此峯、所盛瓮甕、今存片岡之村、其子孫立社致祭、相續不絕、原云、以こき茨城郷已小本郡の地より輔時卧一小晡時卧小作る式の藤内神社と云ふ風土記ハ其起源な

了輔時と藤内假字

書紀輔をふの假字小用とる多し續紀神護景雲三年小吉備藤野和氣清麻呂等賜姓輔治能

真入^ト時ハしの假字なれと萬世防人歌小天地を阿米都治も即藤なり

之こ^ト東人の語之卧の内小轉と^トも通音小^トもなりちの通上小

同 藤内今ハ又牛伏と云ふ石川文徴々説曰藤内を今の牛伏村な

ら^ト其南小むら山と呼^トら山は^ト是古茨城の山な^トい^ト

輔時卧之山ハ大橋村に上^トる今富士山と云ふ山是な^ト多く^ト 按 富

士と呼ふも^ト小原ハ富士山よりハ南な^ト大橋小岡の宿と云ふ

所あるハ片岡の名残り^トハ富士山の西南飯田村^ト神代の甕と稱

とる物ニツあり是小蛇と盛^トる器を^ト能本郷の事残

盡を按或云牛伏の社三ヶ野
村ハ甕之村なり

洗井郷 詳ならぬはさし風土記河内驛と自郡東北と指さる方位

小據る郡家と其西南小求ひる小國府又安候りも便りりて形

勝と得たる川和田小過る所なり是必古郡家の地にて洗井と

稱を依地なり按本國の例郡と同名の郷皆郡家の地なり

其初那珂郷なり僻遠の故不便地小遷るるなり川和田

ハ江戸氏の故墟なりを傳ゆるとも今其形勝と察する小獨江戸

氏より勢ふりり江戸氏ハ却て郡家の故資小據たるなり

中山信名曰洗井ハ隱井の誤今加倉井村其地ハ隱井ハ香取文書

鹿島日記等小其文字見えて風土記小溪腰掘井薛蘿陰於壁上と

もりりて今も其地小加倉井と云ふ井ありりて地名ともなり其

義ハ幽隱の井と云ふ郡家の川和田小ありりも其郷中の地なり

一此邊郷名の地稀疎なりハ必
一郷を置く一と是又一説也

那珂郷 今那珂村是之郡名と同じとて上古國造の居地なり

や按風土記河内驛西南小郡家ありハ郡領の世となりてハ此地

早く墟となりたるハ江戶氏の先藤原通資此地不在

那珂氏となりハ故資の猶據る不足ありハ文保元年

熊野願文小常陸國那珂東郡住那珂四郎盛通同五郎通泰とあり

ハ此頃より子孫本郷小居たるハ太氏中世豪族郡家又郷名の地

と以て氏とて者多ハ各其地の故資小據る所ありと以て

八部郷 今茨城郡谷田部村是之按名義の解ハ河内郡あり此地

武田郷 今武田村是之按北隣菅谷村小武田山不動院ありハ其村

武田刑部三郎義清此地と以て氏とてなり小似り

武田系圖甲斐武田の地なりとて猶能考ふ

幡田郷 今部田野村是なり
按和名鈔河内茨田郡遠江長下郡並幡多音判多相模餘綾郡淡路三

原郡並幡多音波多參河渥美郡幡太大和高市郡波多二所音なり此地ハ何とよみたりん 北隣白方村埴田祠

舊記小戸田郷平磯寺と云ふ文ありと聞あり
原文ハ和銅二年七月七日戸田郷平磯

寺出現とありと云ふ 鹿島康永田收注文小吉田郡戸田野鳥巢無

量寺鹿島氏康永元年知行分注文小戸田野郷鹿島大祢文書小

戸田野郷石川舊記小戸田野
按二書ハ年號なり共小天正前の物なり

野小改む

右廿二郷の内大井一郷ハ其所知るべからざる其餘那珂河の西小

戸中世那珂西郡と稱せし地なる入野吉田安賀常石全隈具部志

満阿波芳賀石上鹿島茨城八部洗井十四郷ハ文祿より茨城郡小入

那珂河より東小て那珂東郡と稱せし地なる朝妻岡田河内川邊

那珂武田幡田七郷小久慈河の西小中世久慈西郡と稱せし地

る八部倭文美和神前木前五郷を加えて今那珂郡なる其地ハ全

那珂河の東久慈河の西より
按中世又久慈河より東ハ佐都川を界とし久慈東郡佐都西郡佐都東

郡と稱し三分小より東鑑治承四年小佐竹ヲ常陸奥七郡を領し

何多々此那珂西郡よりの六郡小多珂を加えて七郡と云ふ其實ハ

那珂久慈多珂の三郡之税所應永切手員數小もこまを奥七郡

と稱し奥郡ハ深奥の郡より續紀延暦元年已小陸奥奥郡あり

神名帳那賀郡七座
大二座 小五座

大井神社 詳ならは
説大井郷の 下小出たり

酒列磯前藥師菩薩神社名神

今平磯村酒烈 按幡田郷之酒列原

本及史小從六段田六歲寺瑜祇經口傳真書小貞和五年吉田郡
逆頰神官寺書寫之是亦酒列の一証之大洗小例をれハ此地
酒列云云所之神宮寺ハ 文德實錄天安元年八月辛未大洗磯前
日照沼村如意輪寺云々

酒列磯前神等預官社十月己卯大洗磯前酒列磯前兩神奉神號曰

藥師菩薩名神實錄齊衡三年の文ハ大洗小載ハ按祭神ハト部兼

俱神名帳頭注小大洗と大已貴本社と少彦石と記
史小同日官社云々同日同神號云々見たり本社ハいつの頃より
廿餘小石と兩地小分祭を見えたり本社ハいつの頃より
廢を寛文三年小其社趾を發して舊地な多と知る再興其
事舊國誌小載して地を發して石棺を得たりと何ハ葬埋の
地の如くなきともそれを全く措辭の失りて當時分祀の時其
惟石等と石櫃小納免塵藏を見えたり神階を仁壽元年後の
神なれとも其初を正六位上とせん小貞觀元年
贈位より明應十年小從二位

藤内神社 今其所詳なら按本社の起源ハ風土記小見えたる事

今何處なや詳なら其地不就考るに谷津明神云々此神社を
らめ今大足半伏田島黑磯三輪谷津三野七村此社を以て鎮守と
其古社たる事思ふ此社と土人又つめ社云云久慈
郡式社と同稱如くなきとも此社を和光院過去帳天正の頃小
々テ夕テ野館ノなとも何りて古く此地の稱となり古語小頓
蛇を多知波美云云小らあひてつの社を龍の社の義と見
えた

石船神社 今茨城郡石船村小 按社記鳥石楠船神を祀る古事

名謂天鳥船又云尔天鳥船神副建御雷神而遣是以此二神降到出
雲國伊那佐之小濱云云此地を鹿島郷の屬なり社側の一
大石長二丈餘其形船の如中窪く常小清水湛然なり早歲
小其水を漂て雨を請ふ屢驗なり其石下清流ありて岩船川
と云ふ水流中小石亦悉く船の形をなり又社の上なり山上小
も一丈又ハ五六尺なる船形の石枚數を應らるる岩船川下流又

木葉の紋ある小石と出で葉片
小碎さても木葉紋愈鮮明之

三代實録貞觀元年四月廿六日辛

亥授正六位上石船神從五位下

按神階ハ此後贈位九度有之
明應十年小正二位有之

保庄 私稱郡 私稱郷 沼河

國井保 今國井村之弘安勘文嘉元田文共小國井保二十六町五段

大さ何里

按尊卑分脈常葉又太郎政廣後國井源八と稱を鹿島大
称互文書小據るに政廣罪と源範頼小獲て亡命一姓稱

と變して保司となり國衙所管の地小逃したる之鶴岡應永七年
文書小常陸國那珂東國井郷佐竹左馬助跡事と何さ其頃ハ已

小保と廢
せしむ

石崎保 今茨城郡上下石崎村之吉田社文書文永三年八月造伊勢

豊受大神宮使神祇權大輔大中臣某下文小可早止催令京濟當國

吉田社并石崎保所課造宮米事右件兩所止使催可令京濟之由領

家所被申請然則早可令存其旨と何り誰人の所領なり安弘

文此保なり嘉元田文石前三
十五町と何りて保の字なり地頭ハ石川家幹子石崎禪師房なり

又之佐竹義篤康安二年正月讓状ハ小田御前分義篤の女小田孝朝妻

吉田郡石崎保と何れ其頃ハ佐竹氏の地なり

吉田庄 東鑑建曆二年六月小常陸國吉田庄地下沙汰人等濫妨本

所所務之何るを按本所ハ領所小對藥王院元徳三年雜掌阿闍

黎祐真々和與状小近衛北殿御領常陸國吉田社領按嘉元田文吉田社百五十八

町六記たまら建曆の前々近衛家の庄之藥王院曆應文書

小大羽公田十七丁一段十五歩云ふ事ありて大場村より其村
善福寺彌陀堂棟札小天正十三年酉二月常州吉田庄大場村に書
ありハ其庄内なる小公田ありて吉田郡と稱を一地皆庄小ハ何
ら

鹽龍庄 東鑑脱嘉祿元年九月故大夫判官光季伊賀光季承久三年
京都高辻より誅と

遺領事有其沙汰彼子息四郎秀村等拜領之常陸國鹽龍庄和田

平太在柄
胤長知行之こと今茨城郡塩子村より在柄平太り關所を

と一と光季より秀村より地頭を一人の何頃小建する庄を

アケル無量壽寺康永文書小ハ鹿島利氏子左近大夫將監貞綱

地頭を一人と佐竹義篤小掠免られ高師冬に訴へて旧小復した
るの幾程なき又失ひしとや義篤の康應の讓状小ハ其地と載
たり按佐竹家士系圖和田胤長り遺胤ありて佐竹
氏小仕ふ和田安房守昭為も其後なりとそ

吉田郡 將門記小吉田郡蒜間江とありて本國の内私小稱を郡

名よりハ最古一嘉元田文吉田郡二百廿三丁一段内恒富倉員按
吉

田社仁平元年留主所牒小も吉按大使役記も塩井
田郡倉員あり今其所を失ふ塩井河河氏あり今其所同上大野

石前武田大戸長岡中野根今詳なき平戸馬渡石川戸田野とあり皆

其地の目之又大掾傳記小吉田族の姓氏菖蒲井中山方波見並上
石寄

地の石崎大戸石河盛戸今森島田大野平戸谷田部勝倉武田堀口市

毛猫寄大戸の地 蛭町、大泉並下大道理山三段田の地 八辻按其所詳ならず

小贈る書小やつむいやはりの内と云ふ事あり八辻小似たり今八文字と云ふ苗字の人ありを此八辻やつむいの轉とすや

常葉宇喜又宇木浮小作袴塚等はる常葉の地を以て郡境の概畧と知る

其域ハ今小鶴川と西界として其東北より那珂東小渡まで其

南邊小若干あり按藥王院延元二年、觀應三年、文和二年、貞治

五年、應安元年等文書、吉田社應永三年文書、税所應永十七年文書及切手員數大永の頃諸草心車

鈔等吉田郡の稱ありとのハ枚舉を多小違あり

恒富郷 石川家幹六子恒富六郎高幹按東鑑仁治二年恒富兵地頭

の地ニ藥王院建保六年文書、恒富郷内真美穴林村、又曆應文書、恒

富郷内、大羽大塩前塩大串、矢田谷六段田、石川、森戸、入野、鹿島、康永

田牧注文、小吉田郡恒富平戸村、地勢より推さる上の數村、小東前

栗寄二村を加えて此郷なる一、其餘嘉元田文、小吉田郡恒富、石

川阿弥陀寺、天文三年鰐口識、常州吉田郷恒富里、石川村、圓照寺を

ともありて私稱とハ見ゆまて顯きたりし郷名を

涸沼 風土記阿多可奈湖、將門記吉田郡蒜間江ハ皆此沼の稱小

て今涸沼ヒスと唱ふるハ蒜間の轉とるな依一、此沼上流ハ今郡西

北真端古新治郡の地 小發一笠間の西より来栖小至り西來の流と合

東流して下土師小至り又西來の小流と納ま安古より北來の

小流と納ま小鶴より北來の鯉淵川と合し谷田部茨城の西駒場鹿島

の東より酒沼となる沼口より真端まで七八里なる一此川小舟より酒沼より

下土師小至る えて酒沼ハ其首西駒場南海老澤鹿島 小起リ北石寄茨城 相

對を分中間小ありて宮寄鹿島 の北より最濶く幅半里小餘より慢

流東行二里小近く夏海神山鹿島 の北島田茨城 の南より廣六丈小過

とさふ流となり東行して大貫鹿島 の北より曲流し磯濱鹿島 の北

平戸川又茨城 の南より那珂河小合より西駒場より東磯濱小至る始

終本郡と鹿島郡とを界して三里餘漕運の利あり

那珂河 風土記粟河と稱し萬葉集ハ中とあり此河兩源あり

て下野より起る東源ハ那須郡茶臼嶽小發し南流して毘沙門岳

と免くを板室の南塩津より原寺龜山小結鳥の目鍋掛堀越を
云ふ諸村を歴て黒羽城の西を過り鳥山城の東より西源ハ
塩原山より出て宇都野佐久山福原等を經て佐良土按伊勢鎬矢宮文書乾元
二年度會神主則彦狀小下野國那須北条郡内藤田并蓋堵村又藤田郷蓋堵村ともあり此地なり 小至り二派合
流し是迄兩派共小又十里と南行し野田村那珂 の西より始て本國
の境小入り今茨城那珂兩郡を界して又南流十里東岸ハ那珂郡野田長倉土呂

部金井大島野口福島小野小場向山新田下江戸大内田寄戸村上
下國井田谷中河内青柳の十九村西岸ハ茨城郡上下伊勢畠赤澤
上下穴澤大山粟野下坪上泉上中
下河西岩根飯富袴塚の十五村ハ水戸城の東を經て南行二里東岸
ハ那珂郡枝川勝倉三段田柳澤那珂湊六村西岸ハ茨城郡細川又
谷吉沼坪大野下大野小泉川又六村と鹿島郡磯濱村合七村

常陸志 卷十 那珂 七

の南磯濱の北より酒沼の下流来り會那珂湊小して東海小歸
此河漕運の利ハ上黒羽小止る又酒沼小も至る上流ハ年
魚と産す鮭ハ秋時上下流共小網をきとも水戸城近き河を經小
て獲たももの其味尤美なりと云ふ海口狹淺よりて大船を容き
只松前陸奥より小船の漕
運多

附

和名鈔下野國那須郡十二郷之二以下本國の域小ならずされとも
水戸封内なるを以て附載す

山田郷 今大山田上郷下郷是之按此郷那珂上流の東小ありて武
郷ハ溪流の隔てありハ溪流
の北ハ本郷の地小て今封内の馬頭多部田谷川和見向田小口小
砂大山田上郷大山田下郷九村の之小あり其餘山田矢倉等

諸村も本郷小
隸さ形勢之

茂武郷 今武部村是之茂武ハ土人もと唱えて此地の總稱と云

按此地宇都宮族茂武氏と稱して數世此地小居まり何如なきを
健武武部の茂武とハ轉さし其故を知らず此郷本國那珂
郡界と那珂河上流との間小ありて山田郷とも溪流の隔てあり
ハ今封内の大那地大内矢又松野富山又那瀬武部七村の之小あり
ら那珂上流の東より國界の西ま
ての諸村も必本郷小隸さ地なり

神名帳下野國那須郡三座並之一

健武山神社 今武部村小あり按祭神ハ倭武
尊なりといふ

續後紀承和二年二月壬寅下野國武茂神奉授從五位下此神坐採

砂金之山按此文小據ハ茂武ハ倒語小似たりと云と茂武氏小て
見れハ其誤亦久今武部村小神社あり且土人のも

と稱多々成以て鈔と史との異を定めて此社とをり神階ハ貞觀元年より贈位十度小及ひとまら明應十年ハ從二位を承る

那須國造碑 大山田より那珂河乃上流を隔て湯津上村按大筒郷の地

大城村是々今の小町元祿四年本藩より碑亭と建て墓田とも附

とらゆ碑云永昌元年己丑按持統天皇居攝三年四月飛鳥淨見原大宮天武那

須國造追大壹那須直韋提評督被賜歲次庚子年文武四年正月二壬子

日辰節弥故意斯麻呂等立碑銘偲云尔仰惟殞公廣氏尊胤國家棟

梁一世之中重被貳照一命之期連見再甦碎骨挑髓豈報前恩是以

曾子之家无有媯子仲尼之門无有罵者行孝之子不改其語銘夏堯

心澄神照乾六月童子意香助神作徒之夫合言喻字故无翼長飛无

根更固按此文晦澁古拙甚了解小難一永昌ハ唐則天武氏僭偽の號よりて皇朝不用ゆらるると以て衆訟何ぞ獨陸奥

藤塚知明解曰持統紀云元年三月以投化新羅人十四人居于下野賦

由受蘆安生業又四月投化新羅人居下野國をくあまを此頃韓人の歸化さるを雇ひて其筆小出たる故小西土の年号を用ひたる

なる一と文中評督も韓語を化を其説由らる且合言喻字とハ

字謎隱語の離合體して忠烈孝養の四字なり銘夏堯心舜亦以命

禹よりて忠六月童子ハメ一ノと六月よりて孝なりと云ふ頗其解

と得たるら如し其餘烈養ハ解を費に國造評督を並擧たるる是

貳照再蘊よりて此韋提初天武朝國造なり後制度の改より

世となりて持統居攝三年小郡領小選ハまたると云ふよりて國造

と天武小係事己丑ハ被賜よりて管到よりて廣氏尊胤とハ姓

氏録廣末津公豊城入彦命之後三世孫赤麻呂依家地名負尋來津

君とありて上毛野下毛野君の同族なる成以て此郡の國造郡領

常陸國郡郷考卷十終

常陸國郡郷考卷十一

久慈郡

水戸

宮本元球仲笏著

本郡ハ建置の始詳ならず風土記云古老曰自郡以南近有小丘體似

鯨鯢倭武天皇因名久慈原云以こき景行の御時已小郡名何を且其

名の義も亦明らりして郡家の地とも考ふべし其故ハ大里村より

西南中野村なる遠山と云ふ岡を望見ハ其形恰も大魚の如し是大

里ハ後紀弘仁三年十月小驛家となりたる雄薩按雄薩の即郡家也

大里となりたる其地形勝一郡を控制せる小便のこなるは都府往

復小も利なりとして以後又驛家をも兼たり按近世も此地小郡治と

も其形勝自 此地郡家たり、猶又山田郷條と見る、一、杖國造ハ

然想ふ、一、國造本紀云、久自國造、志賀高穴穗朝御代、成務物部連祖伊香色雄命三

世孫船瀬足尾、定賜國造、按姓氏錄左京神別穗積朝臣下小神饒速日命五世孫伊香色雄命と有りて其餘ハ伊香

我色雄、伊香賀色雄、伊香我色乎、伊香賀色乎、小作る、且五世

ハ佐為連、真神田曾祢連等の下六世孫に作る、並從ふ、一、郡領の事

ハ見る所なり、
四至 風土記云、東大海、南西那珂郡、北多珂郡、陸奥界岳、

和名鈔郷十九及餘戸

岡田郷 今岡田村是之中世佐都東郡小入る 按弘安勘文佐都東郡岡田、西岡田善養寺寶

徳二年鐘識、佐都東郡西岡田郷、佐竹知行目錄、正長中、佐都庄岡田郷此庄を濫称なり、佐竹義業子岡田冠者親義ハ此地を氏とと

なる

八部郷 今那珂郡八田村是なり、按矢田部と省きて八田と名後小發多と訓たり、小や和

名鈔伊勢壹志郡ハ太音鋒多、備中下道郡ハ田音也、多とて其餘諸國ハ八田乃きとも音なり、此地親鸞遺迹記ハ小見えたれと其頃

ハ何と訓、一、や今ハ目慣、一、ま、小訓、一、

倭文郷 今那珂郡靜村是之風土記云、郡西一里靜織里、上古之時、未

識織綾之機、未_レ在知人、于時此村初織之、因名、北有小水、丹石交雜、色

似瑠碧、火鑽尤好、故以號玉川、按瑠漢書揚雄傳云、璧馬犀之隣、瑠注、隣瑠文貌、言以馬腦犀角飾殿之

壁也、一、ハ馬腦の事なり、一、倭文ハ主計式常陸國倭文卅一端、齋宣式常陸倭

布二疋、及新猿樂記常陸綾布を、一、多々皆此地の出次所、按古語拾

遺云天羽雄命織文布倭文遠祖釋紀云倭文青筋文之布又按萬葉集常陸防人倭文部可良麻呂ら此地小倭文部を置きたり

や玉川ハ今も水中碼腦を出入下品をふ物ハ水底小遍布を

云不按此川源を郡の西北塩子村の邊より發し村田東野等の諸村を經て瓜連と岩瀬の間より久慈川小歸を瓜連ハ本郷の

屬地

高月郷 高密誤今多珂郡水木村是之風土記云所稱高市自此東北

二里密筑里村中淨泉俗謂大井夏冷冬温湧流成川夏暑之時遠邇

郷里酒肴齋齋男女集會休遊飲樂其東南臨海濱原注石決明蘇甲

○按石決明の顛りて和名鈔小詳之蘇甲羸ハうに羸魚貝等類甚多

之俗がぜ又磯栗とも云ふ此地海濱多く産をり 西北帶山野原注

推櫟榘栗生 鹿猪住之 この泉人聲楚音小應して水湧出る事愈盛々按豊後風

土記速見郡玖倍理湯の類うて異邦小も荊州記吐泉入蜀記不語灘潛確類書西寧衛の泉事言要玄の喜客泉笑泉をくて多く

り弘安勘文鹿島久壽目錄並小此地と泉と云ふ按此地式社あり

札小泉大明神と稱をり今泉の所を甕の原其流其享祿三年の棟

ま成泉川と云ふ泉の名を傳會をありや 海濱小河原子村

あり按今も本郡小隸は東鑑養和元年小源頼朝鹿島宮小寄たる塩濱を此

所の旧名なり按今も魚塩の利多し

助川郷 今多珂郡介川村是之風土記云自此密筑良廿十里助川驛家

昔號遇鹿古老曰倭武天皇至於此時皇后參遇因名之矣按行方郡相鹿と同

一故事之後まで海濱を相賀と云ひ小野寄族相賀氏も居たり

一年小會瀬村と改む宗祇名所千句も本國の内小よ

ミたまハそれも正し傳のゆきて改免なる一 至國宰久米

大夫之時為河取鮭改名助川原注俗語謂鮭祖為須介鮭今鮭字と用ゆ和名

鈔康頼暨心方小鮭按伊勢鎭矢官文書千葉氏の鮭と獻とる状も最古と鮭字之黒村春村曰新撰字

鏡類聚名義鈔共小鮭と佐介とありて名義鈔も鮭と載て俗作鮭非とも見えたり但蔵本風土記小鮭祖小作る却て旧來の面目な多ふ

似たり注須介ハ今陸奥南部及松前等の土人鮭の大なるを稱

さりそまふて鮭祖ハ解と得たり按中山信名曰魚鳥平家と云ふ魚鳥の戦と設きて戯作の草紙

須介と稱するより此名なきを古くは遍く唱えし介川と宮

田村との界小溪流なり是助川の名改負へる所と見えたり今も

折ふ觸てハ鮭と捕らる事ありと云ふ風土記の時ハ驛家のと小

して郷の事とハ兼さる按風土記多珂郡條小久慈塚之助川とありて成務の時道前里を

云ふ後紀弘仁二年十月藻島等と共小此驛家ハ廢せり

美和郷 今那珂郡照沼村小箕輪と云ふ所なり是郷名の遺之按照沼ハ

真寄阿漕乃二湖小傍いたる所ふて酒列神宮寺なり美和ハ水

如意輪寺あり故寺沼と云ひしと後照沼と改し乃曲ふて真寄阿漕此曲なる村落なきはな

れと真幡美和訓同一と見えたりされど此地も真幡小作り今筑波郡箕輪村ハ

義政一族小箕輪氏ありハ此地と以て稱とせしやらん

志萬郷 今島小島等の地是之久慈川の東岸なりて北より山田

川来り合ふる間小狹まる故小島の名なり按佐竹義篤原安讓状小久慈東大島とある

真野郷

詳なる

按和名鈔讚岐那珂郡真野訓万乃近江滋賀郡真野訓未乃近江ハ姓氏録真野臣居家の處なり或

云古事記小麻羅とまうらと訓ミたる事何れも真ハうらの訓小て今那珂郡宇留野村是なる一と文字小遠くして後ハ難

神前郷

今那珂郡米寄石神等の地是なる

按米寄ハ神寄の轉

と以て村の鎮守と云ふ故の地名なり此石神有りて其地久慈河小臨免る故小神前の名有るなる一東隣龜下村も神前下の

義ハ石神の事ハ出雲風土記三代實録等に見えたり式陸奥國黒川郡石神山精社と續紀真觀九年小石神山神と云

父来郷

久米誤

按温古堂古本和名鈔父米に作る因て考ふる父を必久の誤なる事明

今久米村是

佐竹郷小程近事然久米物部居た多所なる

委ハハ佐竹郷小云

按此地城趾ハ佐竹義治子久米三郎義武ハ墟なり

太田郷

今太田村是ハ風土記云郡東七里太田郷長幡部之社古老

曰珠賣美萬命自天降時為織御服從而降之神名綺日女命本自筑

紫國日向二神之峯

按釋紀日向風土記と引て云瓊瓊杵尊天降於日向之高千穗二上峯

至三野國

引根津之丘

詳後及美麻貴天皇

崇神之世長幡部遠祖多豆命避自三

野遷于久慈造立機殿初織之其所織服自成裳更無裁縫謂之内幡

或曰當織絶時輒為人見故閉屋扉閣内而織因名烏織雖兵利劍

不得裁断今每年別為神調而獻納之今今幡村ハ其郷中なる神

調ハ主計式小長幡部絶七疋と何る是なる

按鹿島久壽目録久慈東郡幡郷戸

村本佐竹系圖久慈東郡旗ハ何れも弘安勘文ハ佐都東郡波田と記より地界一定なり

未だて代代の居城

山田郷 今松平村山田入こ云ふ所何々是郷名の遺ひて松平村即

本郷之按村南小山田川あり其源高倉小起西染中染の間と過

慈河小入其川の名即郷名の遺ひて風土記の風土記云郡東

里山誤田里多為墾田因以名之所有清河源發北山近經郡家南會

久慈河多取年魚大如腕之其河潭謂之石門慈樹成林上即幕歷

選吳都賦翠淨泉成淵下是潺湲青葉自飄蔭景之蓋白砂亦鋪翫波

之席夏月熱日遠里近村避暑追涼促膝携手唱筑波之雅曲飲久慈

之味酒是雖人間之遊頓忘塵中之煩其里大伴村有涯土色黃也群

鳥飛來啄咀所食按本文ハ山田川の勝を云ふ山田川山田入の二

名今小傳えしと以て和名鈔兵部式と相校して

風土記後記の誤と正ひを得たり武考異ハ却て後紀風土記小後

誤ひ兵部式山田と小田小改をたると他國の地理と辨とさるの

石門ハ今岩手村按飯野文書建武三年佐竹義篤と廣

河原小戰とあり處なり山田川の南橋經泰小田治久二將久慈東郡岩手

岸ありて久米村よりハ西方あり大伴ハ今其名を失ふ土色黃

こ云ふ小據小隣近なま今赤土村なり此郷後紀弘仁二年

新驛こなり兵部式こまを載り按本文近經郡家南會久慈

之邑原注俗說謂東山石鏡昔在魑魅萃集翫見鏡則自去原注俗曰

滅自所有土色如青紺用畫麗之或云加支川爾時隨朝命取而進納

所謂久慈河之濫觴出自猿聲原云以下畧之。按吉川久堅曰猿聲ハ牛音のも嵐聲のち同例の擬訓小

て上の注小をり古古訓にて地名小用ひたるは黒河春村曰古古ハ吳音久々を連る溪水の久伎出る小取たると猿聲小傳會

ぎ一なるく一又按本文西字行六ハ廿字の誤なるを古久慈河小抱う純たる地勢して

名成得たり石鏡と生井澤村小何る俗月鏡石と呼へる是たり石

面平滑して光澤何る能百物の形と寫す銅鏡小異ふる按近年山

中自然火脉發動ありて此石焦燥とらる頗光澤を失ひしを照

映前小減とりと云ふ此邊の山往々此災何る今昔物語焼山關も

陸奥なれと程速くは生井澤ハ宮河内の北を純とも當時一郷の體小ハ東

に見えたり阿乎爾ハ今と純を出るを聞う按今那珂郡上村田

類き土と出は土人是を土金青と呼ふ其地もの山涯より空青小

古久慈郡倭文郷ならんささく久慈川の西に本郷ハ當時陸奥

白河郡と接するを以て本國に域してハ久慈河濫觴と云ふ一

今ハ依上郷本國小入たれも久慈河源も亦ましく北をるなり

風土記云至淡海大津大朝光宅天皇天智之世遣使檢藤原内大臣足

之封戸輕直里麻呂造堤成池其池以北謂谷會山所有岸壁形如盤

石色黃穿腕按恐彌猴集來常宿喫按此一節原本郡名因名久

何郷小屬を知らる且郡中此池小當一を河内の上小何

りたる小因谷會山ハ河内の屬地あらんと思へる小

小附載をり猶谷會山ハ今棚谷村の山して河内郷に屬する一

池ハのち其處を知らる山南の地小搜探を按内大臣封戸

將門記小久慈那珂二郡の藤原氏あり又佐都社小藤原良繼と

配祭と云ふも封戸存と一故の事なり一中山信名曰大里村

よる天神林村白馬寺小至る所小鶴の池と呼たる大池ありしを慶長中天神林の人長大夫と云つるを開墾して田とせしと云ふ白馬寺の傍小長堤あり天造地設ありと云ふ其入作小出たる知るは是古輕里麻呂の築きたる堤にて鶴の池の内大臣封戸の地ありけり池を多へ其水田今も霖雨經旬なる事ありて潦水擁滞して當時大池たるを様歴然たる其長二里小及ふ其池以北謂谷會山とけりくハ棚谷山小接せし池と聞ゆきと風土記の文行方郡自郡西北提賀里信太郡後此以西高来里の類小く數里残隔てたる地を叙せしも其里數なきものあり郡名條の次小此一節あるを其池郡家の地小近あるを記し此說猶能考ふ

楊島郷

詳ならん

按原本に叙次小據ハ久慈河小瀬を所して今川島村なりともや阿らん又ハ後紀弘仁二年廢

驛となりし棚橋一小棚島小作さるも楊島棚誤りし棚島と云ふ地ありしや今皆其名を失ひたきハ其地知る小由なり

世矢郷 今瀬谷村是之多珂郡の界小阿りて本郡の山脚小迫りたる

此地なりし其名義ハ迫谷なり

按東鑑養和元年世谷弘安勘文鹿島康永田牧注文並佐都

東郡世谷佐竹知行目錄文中北瀬谷なりとあり皆此地なり

佐竹郷 今天神林村是之地小佐竹寺あり是郷名の遺なるもの

小阿りし其天神林と稱さるも天神本紀を饒速日命茂此地小奉祀して其天降りたまふ時供奉天物部廿五部能一狭竹物部

り居たりし所なる故小郷名といはるるなり

元來本郡ハ饒速日命の子孫國造なり

國造祖先

引屬の居地小其祖神を祭り後後官社小列さる時小其村名小

なま〜ハ筑波郡三村郷の小田小同〜別小佐竹と稱さる所ハ
ふり〜ハなま〜因て神號も稻材とも書た多を筆畫の近さま
〜神名式國史とも小稻村小ハ誤り〜或云村ハ樹の省文小
〜誤さる小ハ何うすと巧なる説なきともいふ〜其例を知らぬ
今七代天神たりと云ふ社〜必此稻村神社を依〜
丹羽郡出羽川邊郡並稻木郷あり尾張ハ式稻木神社あり古事記
垂仁卷大中津日子命者稻木之祖とも見ゆ又武藏入間郡物部天
神社と云ふも何れ又按此郷ハ佐竹義業始て居り佐竹氏と稱
其三世義政亡いて後弟太田四郎隆義太田小居て佐竹氏を継ぎ
村名を稱〜氏とさるる大方當時の習なり後又佐竹族ハ天神
林氏を稱さるもあり

高市郷 今那珂郡石神村より下流久慈河小臨〜て高内今龜下村の内竹

瓦按高市河原と云ふ二地は是本郷の遺之風土記小所稱高市自此

東北二里密筑里とあるは此地其舊なるを知る〜ハ河流の泛

溢久年よて地形轉變〜所を往々古郷の様今考ふ〜和按

名鈔大和高市郡訓多介知今たけいちあり

木前郷 今那珂郡南酒出北酒出の二村共小木寄と云ふ所あり是

郷名の遺〜按太田の地小も木寄あり〜古文書等に
も見えたり〜太田郷の地なり

佐野都郷 野行佐都ハ今里宮村是之風土記云自此太田以北薩都里

古有國柶名曰土雲爰免上命發兵誅滅時能令殺福哉ササノ所言ハ因名佐

都北山所有白堊可以塗畫之東大山謂賀毗禮之高峯ト即在天神命

名稱立速日男命一名速經和氣命即坐松澤松樹八俣之上神崇甚

嚴有人向行大小便之時令示灾致疾苦者近側居人每甚辛苦具狀請朝遣片岡大連敬祭祈曰今所坐此處百姓近家朝夕穢臭理不合坐互避移可鎮高山之淨境於是神聽禱告遂登賀毗禮之峯其社以石為垣中種屬甚多并品寶弓梓釜噐之類皆成石存之凡諸鳥經過者盡急飛避無當峯上自古然為今亦同之即有小水名薩都河源起北山流南同入久慈河原云以下畧之。按式薩都神社風土記薩都里因名佐都和名鈔佐都これ民部式云凡勘籍之徒轉頓部姓注丹比部或變永吉名為長善如此之類莫為不合之同一く文字ハ姓名地名とも小一定なり同訓なき文字の異なりを嫌ひなり里ハ其近地町谷村ハ社を産馬里宮より出馬をさうに松澤ハ其地詳ならず賀毗禮之峯ハ本朝俗諺志ハ此神社の事と載とて昔々うひま山入四軒の山上ハ

社ありしと云ふと阿志を今此入四軒山なるを何の頃より又里

宮村ハ遷とる小佐都河ハ後小出せ按上の免上命ハ國造船瀬只屋ウ父祖も

や古事記開化皇子小免上王あるとを別人なり

餘戸里 詳ならず按伊豫伊豫郡餘戸を今與古と呼へると聞事ハ本郡良子村其音與古小近又地勢よて郷名を

安排をまゝ高君天下野等ハ佐都河内此二郷より隔絶して係屬小難う多し若此地餘戸を里ハやなと想像するまゝ小一皆其證驗ハある事なり

右十九郷及餘戸久慈河西ふる倭文八部美和神前高市木前六郷ハ今那珂郡小入る密月助川二郷ハ多珂郡小入る其餘岡田志萬久米太田山田河内世矢佐竹佐都九郷ハ真野楊島餘戸ハ詳ならず陸奥白河郡依上

一郷とを合さる今本郡之

和名鈔陸奥國白河郡郷十七之一

依上郷 今保内と稱する四十二村は地是之其塙村小依上と云ふ

所あるを舊名は存せり中世保と名を依上保と唱えしより

今ハ保内と呼へる事と成まを白河文書建武元年巳小當國依上

保と見ゆ同二年十月延元四年四月文書小ハもや白河結城氏知

行と後結城親朝武家小降り其新知行を削られし時小此郷を

も失ひて佐竹氏に有たり佐竹系圖小依上氏ハ此時小領地

となり支族を置たる小因る後依上宗義山入與義と共小上杉禪

秀の黨ふて亡したるより復再び結城氏朝り地と名を足利持氏

應永卅年九月白河彈正少弼小與る状小陸奥國依上保 佐竹依上
三郎跡

事為料所預置也と見ゆ上杉憲實に依上保御判御拜領目出候

と云ふ状も有り密蔵院永祿本佐竹系圖小竹道 義人
法号 御代より山

入 與義
の族 取合て南郷保内と白河へ被取なりと何るを此時の事

と記さる其系圖義舜の下小此御代保内被取返也と有りて白

河郡八槻大善院永正十三年七月新三郎とある義舜の状小南

了坊出仕申候間依上保内之且那同行之事如前々可致成敗也

書たるを 按此地修驗ハ今も
大善院支配なり 此取返せる時小出たる状なり今

下野宮村近津社永正十一年義舜寄進状小々依神之保黒澤矢田野内六百五拾貫文之所近津へ寄進之目錄如件と有り開田惠福寺元龜四年鐘識常州佐竹寄神保黒澤村下野宮近津山にも刻せ

按此鐘本近津社乃鐘なりと云ふと云々下野宮ハ宮の号小テ村名ハ黒澤之上の黒澤も同地より多珂郡黒澤小を有り以テ常州に記せり多々佐竹義篤寄進せりハ溝山鐘小も天文戊戌十月常州ハ溝山に記せりハ溝ハ續後紀延喜式共小陸奥白河郡なる多々明白なるふらく識 吉成氏所蔵天文五年の書小を猶

上小作る開田村十二天祠永祿六年鰐口識小奉懸依上開田村全澤十二天鰐口に勒せり豊臣家文祿檢地の時小佐竹氏の領地なる以て遂不久慈郡小隸せり

神名帳久慈郡七座 大一座 小六座

長幡部神社 今幡村小有り風土記太田郷小出に 祭神其文小見ゆ 按古事記開化天

皇皇子日子坐王子神大根王者三野本巢國造長幡部連之祖神大根王亦名八爪入日子王國造本紀春日率川朝開化彦坐王子八爪命定賜國造と有り其時と考る小開化皇子國造小なり給ひ小より綺日女の後なる多王命ハ三野と避て本國小遷らるるなり

ア猶其族の三野小留まると有り其統領とて長幡部連ハ置りまると見ゆ式武蔵賀美郡小も長幡部神社有り又按神階ハ仁壽元年正六位上なる其後十度の贈位して明應十年より正三位なり

薩都神社 今里宮村小有り風土記佐都郷小出に 祭神其文 小見ゆ 續後紀

承和十三年九月丙午奉授勳十等薩都神從五位下尋授從五位上
三代實錄貞觀八年五月廿七日庚午授從五位上勳七 按恐 十誤 等薩都

神正五位上按恐下誤十六年十二月廿九日癸未授正五位下勳十等薩

都神從四位下按從四位下恐誤此時正五位上も後九度の贈位も明應十年八正一位なり

天之志良波神社 今白羽村小按古語拾遺云天太玉神率諸部神造幣帛當此之時伊勢國麻績

之祖長白羽種麻以為青和幣今衣稱白羽此其縁也此事ハ舊事記小も亦載たり三代實録貞觀八年五月

廿七日庚午授正六位上白羽神從五位下按類聚國史神號天字あり後九度の贈位あり

神階ハ從二位なり佐竹系圖ハ此社義舜子今宮永義本國修驗の長も別當なり

天速玉姬命神社 今多珂郡水木村小三代實録貞觀八年五月

廿七日庚午授正六位上天之速玉神從五位下十六年十二月廿九

日癸未授從五位下天之速玉神從五位上按中世泉大明神と稱了密月郷の下にあり神階

ハ後贈位九度あり明應十年ハ從二位小なり給ふ多し

靜神社名神大 今那珂郡靜村小按和名鈔上野那波郡倭文式倭文神社あり因幡高草郡倭文音

之土利式倭文神社あり淡路三原郡倭文音之止里下野都賀郡倭文今志鳥村あり美作父米郡倭文淡路以下三所ハ式の神社なり

叔何所もえと唱ふ本郷ハ風土記ハ靜織里とあり神號を靜と稱す初ハ初よりあり後神號小從ひあり

之呼ハるもや主計式駿河國倭文卅一端と見えて神名帳富士郡倭文神社あり駿河風土記ハ志津機社祭務幡千姫與稚日女尊

原註志津機之名者本女功依兩神名與其功業而號之と記ハ神代紀ハ倭文神建葉槌命古語拾遺ハ天羽槌雄命織文布倭文遠祖神

名帳ハ大和國葛下郡葛木倭文坐天羽雷神なり神名倭文ハ建葉槌命なり小本社の傳ハ祭神手力雄命より攝社小建葉槌

命と祀りて高房社と云ハ高ハ建ハ房ハ葉之と駿河の初より異神なりと云ハるも同ハるも猶能博く考へて精しく定む

三代實録仁和元年五月廿二日丙午從五位靜神授從五位上日

本紀畧寛平九年十二月三日甲辰奉授靜神位一階按正五位下之後贈位九度

經たき明應十年ハ正二位の階なり

稻村神社 今天神林村なる七代天神社と云ふ是乃依説佐竹郷小

了續後紀嘉祥二年四月庚寅稻村神預之官社水旱之時祈必致感

三代實録元慶二年八月廿三日丙戌授正六位上稻村神從五位下

仁和元年五月廿五日丙午從五位下稻村神授從五位上按後贈位九度なり

ハ明應十年ハ從二位なり

立野神社 今那珂郡上小瀬村小なり按古ハ八部郷又按式伊勢飯高郡尾張丹羽郡同號の社

あり本社ハ相傳て大和國龍田立野風伯神社小同級長戸邊命と祭ると云ふ三代實録貞觀十六年五

月十一日戊戌授正六位上立野神從五位下按後贈位九度なり

るハ土人曰昔ハ社山の半腹小なり後平地小移して今ハ小瀬川の邊小なり旧趾を今も立野山と云ふ上る事五十級許小平地あり是社の旧趾なり

同上陸奥國白河郡七座大一座之二並小六座

八溝嶺神社 其山上小なり續後紀承和三年正月乙丑詔奉充陸奥

國白河郡從五位下勳十等八溝黃金神封戸二烟以應國司之禱令

採得砂金其數倍常能助遣唐之資也按此文小據ハ其神ハ山靈小

一今山中觀音堂の側小金玉水と稱する泉あり古金礦と掘一

石都都古和氣神社 今下野宮村近津大明神是なる按近津又千勝小作

其稱の由詳ならず武都都古和氣神社名神大ハ一宮記陸奥一宮大己貴男高彦根神名帳頭注味耜訖彦根とあり八槻の近津明神小後紀承和八年正月奉授白河郡勲十等都都古神從五位下是なり式伊波止和氣神社ハ頭注手力雄命とあり馬場の近津明神小後紀承和十年九月授勲九等石波止和氣天神從五位下是なり神名も相似て近津明神と稱するも同一也後石都都古和氣神社ハ必下野宮の社なる事疑なり石都都古ハ石門都都古と合稱する小據ある本社ハ二神を合祭と一社なる也一慶長九年二月彦坂小刑部の奥州南郷之内寺社領付可申書上帳ハ八槻近津ハ殿舎十一宇先御神領三百七拾三石六斗餘馬場近津ハ殿舎八宇先御神領三百六拾三石とあり豊臣檢地ハ削られたる數と見ゆきと猶盛なり下野宮近津も依上郷の下小舉る佐竹義舜ヲ寄進状も其大社なる事知らるなり頭注伊波止和氣を手力雄小と古事記ハ手力雄神天石門別神と二神と並舉て且天石戸別神亦名櫛石窗神亦名豊石窗神此神者御門神也次手力男神者坐佐那縣也小何れも同神小何れも佐那神社ハ式伊勢多氣郡なり古語拾遺小令豊磐間戸命櫛磐間戸命二神守衛殿門原注是並太玉命之子也小齋部氏の祖神とす各其說異

な色とも畢竟此二神と白河關の近地小祭小ハ關門鎮護の為此見えたり下野宮村と稱する古くハ黒澤村なるをハ溝と共小一郷小式社小ありて以て地勢小ありてハ溝と上の宮近津と下の宮と唱え小あり地名となす小あり上野宮村のハ溝小近津を以て其由と思ふ

庄河

佐都庄 後宇多院御領目錄小佐都庄寺九東方按此四字詳ならむ何れも嘉元

四六月和泉美濃丹波伊勢等の地同照慶門院小讓給

る院宣とも載り其後何人の傳領せん白河文書小佐竹義俊

文明三年狀ありて郷庄の内東河内西河内并深萩之村佐竹諸

士知行目錄正長小佐都庄岡田なり何れも今小澤十二郷と云ふ

たゞ此庄の地なり 按弘安勘文佐都東郡内岡田、税所貞治五年明徳三年二通の奥郡切手小上小澤二十丁有り
て皆庄の字なり 那珂郡石寄郷
も小庄なりさゆ所も有り

久慈庄 佐竹義篤文和四年讓状小久慈東郡内高倉郷内久慈庄と委しく記たるを此庄なりと事知るべしとされと福小ふて其稱著

ハキトサマ

久慈河 萬葉集本國本郡防人丸子部佐壯の歌云久慈河 慈川 自我波波佐氣

久阿利麻豆志富夫彌爾麻可知之 左待、塩舟 自奴伎和波可敞里許牟 我、歸 の河

陸奥白河郡白河小源にて已小久慈河名有り南行して八溝山の北よりして山中九谷来會大瀑布と云し大梅村より久慈瀑と

云ふ又一源有り棚倉城の東北小起り更二源有り八溝山麓の山

本村と二國界の珊瑚室山と小起り此三派次第小久慈瀑の流小

合し落合臺宿植野地三村を歴始て本國依上の地小入り下野宮

小て其流小舟と浮ぶべしとそれより南行して八溝川 川山 押川 大

大澤川 大澤 四度川 水木 湯澤川 下小川 十石川 舟生 の六小水を

依上り内小納まきり南流し浅川 川島 山田川 川合 佐都川 落合

茂宮川 留村 の四水を東より納て更南注 西岸ハ今那珂郡山方野上、岩寄、久慈岡、横瀬

宇留野、下根本上下岩寄、門部酒出米寄、石神、龜下、豊岡十五村東岸

ハ久慈郡西ノ内、生井澤、東谷、小貫、辰ノ口、塩原、小倉、富岡、鹿河原、上

下荒地、川島、小島、栗原、上下河合、落合、堅磐、土木内、留兒島、廿村、豊岡の東兒島より東海小歸

凡下野官より海口小至る道程十七里あり海口狭小漕運の利なり

佐都河 此河源と多珂郡北陸奥界に山を發し西南行して大管小管の間を南注し本郡小入里東西河内の間を過て里宮村の東と經太田に方より來る小流と西小容ま内田の西よりくま落合よりく久慈川小入る管より落合小至る大率南流十里小近し淺流より舟楫を受るに堪へば年魚を産む甚肥膩しして國國溪流在處こま茂産をれとも此川は品小敵をものなり中世久慈河は東なる本郡の地茂三分し久慈東郡佐都西郡佐都東郡と稱しより久慈河小近き方小久慈の名を負はを其餘ハ此川を界

小て東西と呼ぶなり

附 孝女 節婦

三代實錄貞觀四年五月十日丁丑久慈郡人丸子部妹人進位三階以孝於父母也

類聚國史弘仁八年閏四月戊子常陸國人長幡部福良女授少初位上免其戸租終身以旌節行也福良女同郡吉彌侯部就忠之妻也夫亡之後號泣不絶哀感行路

常陸國郡郷考卷十一 終

夜部石城評造部志許赤請申惣領高向大夫以所部遠隔往來不便分

置多珂石城二郡原注石城郡今存陸奥國堺内○按堺ハ境の義なり

呂命定賜國造こま成務其朝已小石城郡あり今又石城評造ある小

新小二郡を分置とる何如なる故ら評ハ繼體紀云韓地有背評

稱熊備已富理梁書云新羅俗其邑在內曰詠評の義して評造ハ又評

替小同ハ郡領稱なるハ天武紀夜評替那須國造碑評替被賜

大神宮儀式帳評替仕奉ハ皆郡領と云ふ儀式帳又難波朝廷天下立

評時とあるハ即孝徳朝國造其制を郡領小改をらま事と記を

るこ此文小國造評造とあるも互稱とるも何ら舊制ハ國造

と新法其郡領とを分たん為こをさまは本紀風土記ハ全く異な

る傳して石城評造となりたるを請申と後なるを行方郡條大建

其類して後稱小從いなるハ一扱此後本郡郡領ハ猶美夜部たり

詳其道前里飽田村以下道口此建郡の始とる郡名國造且分

なり地事に及ハ續紀養老二年五月乙未割陸奥刻本作常陸之石城

今從古本

標葉行方宇多巨理菊多六郡置石城國割白河石背會津安積信夫五

郡置石背國割常陸國多珂之郷二百一十烟名曰菊多郡屬石城原作

背今

從地理國馬按初本郡を割て石城を置時ハ孝徳朝天下六十餘

訂之國馬國と定まると時して石城の地必常陸國小を何ら

今多珂を割るを全く本國の域ハ此頃石城石背のこ小何ら出羽

國とも置こま後石城石背二國ハ廢して故如く陸奥こなる

建國の時旧菊多を六郡小混したまは此後の石城ハ其最初小置

る郷地ハ増減あるハ旧菊多代罷たるを以て本郡を割たる地

と又別に菊多こ名つけ二國廢此風土記其後又本郡四郷餘を割

して後も永く陸奥小入まり

て菊多郡こ名は石城國小隸と其國廢して後永く陸奥こな

る按和名鈔菊多郡ハ郷ハ酒井河邊山田大野餘戸のこ何ま本

郡を割たる二百一十戸ありなり今も酒井小山田大野等の村

何里河邊餘戸ハ其

地ハ詳なり

四至 風土記云東南並大海西北陸奥常陸二國堺之高山按此四至誤あり西

久慈郡北陸奥常陸二國堺之高山良陸奥石城郡と云ふ一西止二國此堺とてハ本郡全く本國小接續なり且此時と勿去來關本國此域小ありて其良猶菊多郡此地あり一

和名鈔郷八

梁津郷 梁梁誤今大津村是之梁此大小轉と之那珂郡阿波山小

同 按赤濱妙法寺過去帳弘治此頃已小大津之

伴部郷 今友部村是之田尻ハ古田後小之此郷中なる一後紀弘

仁二年十月助川藻島二驛を廢して田後驛を建つとあり之此村

之風土記云國寧川原宿祢黑麻呂時大海之邊石壁雕觀世音菩薩

像今存之矣因號佛濱原云以こ石像今村中觀泉寺境内小あり

高野郷 多珂原野より此地理を推考ふと今高戸村是なる一

地小高野山高山寺と云ふも有り

多珂郷 今上下手綱村是之古郡家乃地なるを以て中世大高と稱

とり今大高寺大高臺と其地小あり其名殘なり按大の字は用事ハ上

の行方郡那珂郡小も出たり手綱ハ古海濱此名と見えたり萬葉集手綱濱此歌

あり曰遠妻四高爾有世婆不知十方手綱乃濱能尋來名益

藻島郷 今伊師町村なりと云ふ所あり是伊師本郷伊師龍伊師

濱等諸村と共小本郷之風土記云郡南卅里藻島驛家東南濱碁

子色如珠玉所謂常陸國所有麗若子唯是濱耳昔倭武天皇乘船浮

海御覽島磯種種海藻多生茂繁因名今亦然原云以日伊師濱

南川尻村小貝濱之呼ふ所也種種死小貝五色の小石多く砂

も顆粒麤にして金銀光彩は是若子濱之伊師石同音して基

石故の地名之後紀弘仁二年十月小此驛家を廢して田後小移れ

新居郷 今仁井田村是之按和名鈔上總武射郡神岡村小新井八幡

宮小津田村に仁田山はるる皆其郷なる証なき帳弘治永祿

頃新田又ニヒタと云ふ仁井田按妙法寺過去

ふなるなるも年久しき事なり

賀美郷 名義地勢と考ふ小今大菅等あたりの郷名なる按和名鈔

武藏賀美郡訓上りて地上將ふり其餘諸國小賀美郷十七

賀美資母二所賀美那賀資母三所那珂のとなり六所有り或曰

後紀弘仁二年十月廢驛と云れる棚橋ハ此郷に屬地して今折橋

なる一棚を拆小作して遂小折と誤るはなる一と此說事迹

小取里之甚理按信太郡條小出とる風土記黒坂命を極角枯

折橋小く、里久慈郡小出たるなりんと弘仁小至り其迂廻を厭

ひて廢驛と云ふ一なる一と云ふ今も折橋ハ久慈郡太田の方

より陸奥棚倉小至る小ハ必

經歷の地之猶能考ふ一

道口郷 今上下相田村是之道口ハ道前小同按和名鈔越前と古

後と古之乃美知乃之利と云ふ其他備前備後以下前後の國同

郡口枳形類を郷として此口を國造本紀道口岐閉ハ古事記道尻
 小作る何まの誤り此地ハ東海道陸奥小入る道の口奥なり
 風土記云其道前里飽田村按上小古道後道前を擧て今又石城を
 割たり後改まりたる道前を叙る故小
 其字有り出羽秋田も古ハ飽田より音阿伊太ニ 古老曰倭武天皇為巡東陸頓宿此野有又
 奏曰野上羣鹿無數甚多其犖角如蘆枯之原其吹氣似朝霧之立又
 海有鰻魚大如八尺諸種珍味遊理多者於是天皇幸野遣橘皇后
 臨海令漁相競捕獲之利別探山海之物此時野狩者終日駢射不得
 一宗海漁者須臾才採盡得百味焉獵漁已畢奉羞御膳時勅陪從曰
 今日之遊朕與家后各就野海同爭祥福原注俗語曰佐知 野物雖不得而海
 味盡飽喫者後代追跡名飽田村

右八郷今現存をそのと小阿ら文祿より久慈郡助川密月二郷代
 増加して今本郡なり

神名帳多珂郡一座小

佐波波地祇神社 今小津田村小阿按社傳天日方奇日方命を祭
 一名阿多都久志臣命又名

佐波波夜遲奴美命今ハ大己貴事代主二神を配祭と云ふ延喜
 式考異云諸本訓左ハ八知乃祇神社按佐波波蓋地名當訓沙半巴
 能久爾津賀美ニ此社舊澤山の西嶺小阿車城主丹波守義秀の
 時其城鎮守を為今の地小移ると云ふ澤山ハ佐佐波を省る也
 駿河國阿波波神社阿山を今淡ヶ嶺と云ふと聞く澤山 三代
 同例之三代實錄小據を古く佐波との唱え事も阿多
 實錄貞觀元年四月廿六日辛亥授正六位上佐波神從五位下按此
 後贈
 位九度何き明應十
 年小正三位なり

庄山關

多珂庄 税所奥郡切手分在所等事と云ふ二通也 貞治五年二月 明德二年六月 文

書小多珂庄 下砥 十一丁と何り 按弘安勘文嘉元田文共小 砥上ハ車の古名之 佐竹義

篤 貞治元年 讓状小多珂庄南萩津郷北小木津村高萩村櫻井郷木皿村

關本郷別府村 按今 佐竹家士知行目錄 文 和小多珂庄手綱大豆貝 按

なふとあもる皆庄内と見えたり 按戸村本佐竹系圖小島根安 良川大塚白庭相田をも多賀

左奉公人と記きハ 博さ小過ふ似たり

拆藻山 萬葉仙覺鈔云常陸多珂郡拆藻山ヲモ風土記歌ニハミチ

シリタナメノヤマトヨメリ 是風土記ニ折 道後と云ふノ據ハ相 藻山あり

田よりハ陸奥小近き方より藻島小海藻多生と何き今磯原村

海中に峙立ち天妃山こそ此山をいふ後夫木抄等に田邊

磯あり此たふの轉りて異地小を何し 夫木雜ハ 引懐中集 たふ

ハ能磯 いたちをふたをくの磯小をふよりや風能ふぬ小原の 考つらんいつくとてふみきとををふたまつさをこ

をぬののいそをふらふとに按宗祇名所千句小鹿島野や露うけみ たる雨過てたけハ能磯小落る夜お月と何々を見て田邊磯ハ鹿

島郡田邊村なまと思ふ誤之千句能體ハ一首小名所を彼是と 讀合さ一歌ともして本國の内を廣く咏したる之餘能歌と讀

て其體裁を 悟る處

角枯山 今黒坂村小何々俗立裂山と云ふ是ハ風土記ハ仙覺鈔小

何々 信太郡 小出 黒坂命能故事より村名ともなりハ黒前山の故之

按山上高七尺餘方二丈許石あり兩断して一ハ立一ハ倒る其
截割せる様西瓜と破まる小似たる因て立裂山と云ふ源義家
事と傳ふ妄誕云ふに足らざる古史通小角
枯と以て角穢小傳會を亦厭ふ

勿去來關 此關小町家集にそのめう海士おゆく一のまたと路
小名こそその關も王様を誘なごす

見えたるを始ふて枕草紙ふりおく此關をいふ思ひ返

たるならんいと志らまほをまをまを其の關といふや

あたらんとあを春曙抄ふくまこの關とまありをふくの關も

一名小似たれとたをれらは注をを是此關一名菊多關あり

按判官物語云ひたちの國とみちのまはとのけいひまんとこの關
と申て古本節用集云菊多關見于源氏吐懐篇源氏細流云奥州菊
多郡關なり俗く
二國お界なれとも陸奥の守る所なる故ふ其國

小屬とり三代實録貞觀八年正月鹿島神宮司言嘉祥元年請當國

常移狀奉幣向彼陸奥所在鹿島神子神而陸奥國稱無舊例不聽入關官司等

於關外河邊被弃幣物而歸と云ふ小據ハ嘉祥前を關ありし

之按此文此關ハな多れと其國ふ入るる
必關と踰ゆを此關え自其内より或云奈古曾ハ波越な

る按名越名古屋と云ふ地諸國ふ多し大う
ハ波越の義ハこの小町ハ歌も其意あり古ハ此關海邊

小ありと後山路ふを移と或云神代卷自此以還雷不敢來

と古訓いうつらなこそと讀小同蝦夷等ハ此方へふこそとい

ふこと是亦一説按續紀神龜元年小陸奥海道の蝦夷及まき大
椽佐伯兒屋麻呂を殺し本國ハ百姓財物と焼

損とらま給復ありを關此關ハ故事ハ源義家櫻歌の事獨著

きて神明鏡小も載たり 按後三年記東鑑小據ハ義家陸奥守とな

小據ハ任と去たるを寛治三年三月と云 奥羽觀迹聞老志云此地

往昔多櫻樹五十年前枯槁盡爾後領主祖父内藤左京兆義泰植百

餘株今所存纔三十餘株記をまと今も又古木五六株殘餘を

小過記 按今所研通路を初慶長小新町富民篠原和泉産所便小

岩壁を鑿開し洞穴の中狹往來とをを行旅の通ふもの

も何より新町庄屋酒井半左衛門承應元年官小請ひ山頂ま

て研開し始て坦途たり兩山懸崖高五六丈より七丈餘之長廿四

附録 本國式外史小載たる贈位所神八座之二其所知るらら

る者

飛護念神 類聚國史貞觀十六年五月十一日戊戌授常陸國正六位

上飛護念神從五位下 按飛護念ハ彦根なる古事記姓氏録に

も小茨城國造ハ天津彦根命也後と云を

國造其管内小奉祀を神ふや或云味和詫彦根命ハ白河郡都

都古和氣神社より今近津大明神と云ふ今真壁郡坂井村近津明

神も同號なれを同神なり 此祠を故古新治郡川曲狹掘し時

ハ小移り云ひ傳て續紀小川を掘開する所小神社也

記をまを舊祠なり若

此祠小ありさる

河江神 三代實錄元慶元年六月廿八日丁酉授常陸國正六位上河

江神從五位下 按青山延壽廿八社考云今久慈郡川合村神祠曰河

井明神蓋江井國音相近疑是也この説小據ハ河井

川合なるに似たまも今其祠一村の鎮守也小して何故小

贈位有りや疑ふハ川合ハ山田川久慈川合流所地の名なり

佐竹系圖小佐竹義重妻河井平六三郎忠遠女とある者若此地の
ふもく河井に作事ありし和名鈔甲斐八代郡川合音加
沈井なきを河合河井八元より同黒河春村曰江井の通ハ枚舉
小違なり上野群馬郡白衣ハ中世白井となり松枝ハ松井田とな
りし類
特小多

多賀城碑云多賀城去常陸國界四百十二里

按是久慈郡北界より多賀國府小至る里數なる

一此六里と今一里として算すれば六十八里餘今國界より
仙臺まで五十里不足らばと云ふ此碑又去下野國界二百七十四
里とありて今道四十五里餘と云ふ二國より多賀まきの遠近大異
なりし事小本國よりハ近き事廿餘里ハ官驛小迂直ありて里
程同し小や
さりし小や

常陸國郡郷考卷十二終

追補

古寺

此書初稿佛寺ハ各其縁起も巧き記とを今熟思
小史格に出るを省畧を慮らんとて以て追補あり

國分二寺

古茨城郡茨城郷國府

今新治郡小有里續紀天平十三年
府中平村

二月廿創建之

僧寺ハ其地と猶國分と呼ぶ府中市北小在り史
を考ふ小此寺諸國共小金光明最勝王經各十部を

置て七重塔も聖武金字御筆の金光明經と納免寺號ハ金光明
四天王護國之寺又國分金光明寺國分僧寺國分寺とも云ふ本尊
ハ金像丈六釋迦常住廿僧寺封五十戸田百町小至る居寺ハ市ハ
里西小居寺ハ原より今大礎石散在る曠原其遺跡之此寺法華
經を安置し寺號ハ法華滅罪之寺又國分法華寺國分居寺とも稱
る本尊丈六彌陀常住十居田五十町小至る按國分と云ふ國家祈禳
の爲小每國別小二寺を立し故に稱を壹岐對馬二島小ハ島分
寺と呼つるも其義知るく續紀天平九年二月詔每國令造
釋迦佛像一軀挾持菩薩像二軀兼寫大般若經一部と云ふと元亨
釋書小引て是國分寺之權輿也と云ふと神龜五年三月金光明經
六十四帙六百四十卷頒於諸國國別十卷天平十二年六月令天下
諸國字法華經十部并建七重塔焉とありハ皆二寺を建る漸之

天平十三年正月故太政大臣藤原朝臣家返上食封五千戸、二千戸、依舊返賜其家三千戸施入諸國分寺以充造丈六佛像之料、云云、事創寺於前、其事を終述たる、又東大寺要録天平十九年九月廿一日、勅充金光明寺食封一千戸、廿六日下符、此時本寺の封、小あらざるべし、大倭國分寺封五千戸、小至るの漸りて敬供養流通此經王者我等四王常來擁護一切災障皆使銷鑠憂愁疾疫五令除去所願遂心恒生歡喜とありて金光明も般若部中の經なる、同く崇奉何れし由之、
屋寺ハ先小不廢、僧寺ハ天正十八年佐竹兵大掾清幹と攻亡とし時の放火小灰燼きと後又再興と云ふ

神宮寺 鹿島郡埜村古趾舊大宮司中臣氏宅地の邊三代格天

安二年官符云天平勝寶中、官司中臣鹿島連、大宮司の祖先、大領中臣

連千德等、与修行僧滿願所建、承和四年、預定額寺、又嘉祥三年官符

云、應隨闕度補僧五人、此時部内民大部須彌曆等五人を度し住持としむ三代實録貞觀十

七年三月庚子、勅遣使者施入幡三十四流、國司載帳、永以相傳、使者

奉幡之日、修善諷誦、便以常陸國年進内藏寮布百段充觀料、と記と

按滿願ハ京師人靈跡を巡りて天平勝寶元年鹿島小至る大般若經六卷と書寫し神宮寺と建つ八年ありて駿河小住に宮根山小練行し其三所社と建つ後伊勢小赴き桑名郡多度神社側なる道場小居り丈六彌陀像と造る神託ありて神坐山の南小堂を構之、神像と安置し多度大菩薩と稱す、實天平寶字七年十二月廿日之是所謂多度神宮寺なり後再び宮根小還り練行初の如し聲響昇聞召し後以京師小赴き途より寂に年九十七常小方廣經と課し一萬卷成有聞了因て又萬卷上人とも云是鹿島卷宮根多度兩縁起不見申續紀天平神護二年七月遣使造丈六佛像伊勢大神宮寺寶龜十一年二月神祇官言伊勢大神宮寺先為有崇遷建他處而今近神郡其崇未止除飯野郡之外移造便地者許之との二件縁起と合し且續後紀嘉祥二年正月伊勢國多度大神宮法雲寺

所々満願寺にて朝使の丈六佛を造らとてハ別小有リヤ詳小
 と云何まゝとあるは神宮寺茂建ハ鹿島天下の最初小伊勢是
 小次く事明之畢竟聖武孝謙の御時ト聖神佛の事甚濫小成て天
 平十三年閏三月奉八幡神官金字最勝王經法華經各一部度者十
 八人ト云ふ事も起リ遂ニ彌勒寺を建て大菩薩の跡と云ふ奉き
 り續後紀小至リハ賀茂社岡本堂の事あり承和十年正月勅
 令十五大寺及七道諸國國分二寺并定額寺名神等寺講仁王般若
 經ト見ゆ是ハ此頃ハ名神社社に佛寺ありト云ふ文徳實録
 齊衡三年五月小能登國氣多越前國氣比兩神宮寺の事ありて次
 て賀茂松尾の讀經も初まき其後ハ海内神社遍く佛寺を建る
 事トハ後寺數遷リ慶長中より宮中阿佐臺小あり今社領内配分
三十石小常陸
 帯の分百石と所務と云

本國の古刹上三寺小次く徳一開基の筑波郡筑波山中禪寺最仙
 開基の同郡推尾山藥王院行方郡尸羅度臺上山西蓮寺圓仁開基
 の那珂郡村松日向寺今茨城郡栗崎佛性寺及吉田藥王院等皆
 延暦天長の創立なる事各其寺の縁起
 舊記及清音寺年代記等小見えたり

